

令和6年度 栃木県養護教育研究会秋季研修会開催(517 名参加)

期日 令和6年10月29日(火)

会場 栃木県総合文化センター メインホール

1 開会

2 会長あいさつ

栃木県養護教育研究会会長 大牧 稔



3 講演「自傷とオーバードーズの理解と援助」



講師 国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本 俊彦先生

コロナ禍以降、10～20代の若者の自傷行為や市販薬等の乱用(OD)が増加し、合わせて救急搬送される自殺未遂のケースが急増している。苦しみを抱え、自傷行為をしてしまう子供たちをどのように理解し、向き合えばよいのか、お話を伺いました。

一つ一つわかりやすい言葉とエピソード入りの説明は印象に残り、ごまかしのない言葉は聞いていて頭の中が整理されたように思えました。

- * 自傷の鎮痛効果は慣れが生じやすく だから、自傷はエスカレートしやすい
- * 自傷行為とは「死への迂回路」 いまこの瞬間を生き延びるために 未来の死をたぐり寄せる…
- * 自傷⇒自殺への触媒としてODがある
- * 性急な変化を求めない
- * 善悪を決めつけずに、両価性に共感せよ
- * まずはモニタリングをしよう
- * 「見える傷」の背後にある「見えない傷」を考える
- * 「死にたい」にマイ人生哲学はいらない
- * 「お願い！親には内緒にして」
- * 子どもは親の何を恐れているか？
- * 親の孤立を防ぐ
- * 「脅し」は無意味
- * 「助けて」が言えないのはなぜ？

今日の講演を心にとめて、精神的な痛みや悩みを抱える子供たちを、少しでも手助けできる「信頼できる大人」になりたいと思える講演会でした。

4 研究発表

「教職員の危機管理意識向上に向けて～児童生徒のケガの実態を通して～」

発表者 栃木県立那須高等学校 角田 翔子 先生
幸福の科学学園高等学校 芳賀 瑤子 先生



5 指導・助言

栃木県総合教育センター 指導主事 永井 千尋 先生



※研究発表内容、指導・助言につきましては、「しろたえ 51 号」に記載されます。

.....
♣ 今回の研修当番は、宇都宮・上三川地区でした。御協力いただきありがとうございました ♣